

Aug. 14, 1968 : 美ヶ原山本小屋

山本小屋周辺的美ヶ原草原には黄色い花が一群の花畑を形成した場所があって、クジャクチョウやシートテハが訪れていて楽しむ。車山方面行きのバスを待つあいだにも何かいないかと注意していたら、かなり下方のゴミ置き場となった平らな部分を黒っぽいチョウが滑空している。もしかして、と駆け下りてみるとキベリタテハだ。まさに感激の出会い。ゆっくり旋回しているところをサッと一振り、キャッチできたもので、記念すべき初採集個体である。



Aug. 14, 1968 美ヶ原 初採集

Aug. 29, 1977 : 新鹿沢温泉

朝日がまぶしい一日のはじまりだ。ところが8時を過ぎるとにつつき雲がではじめる。雲の切れ目からときおりのぞく太陽。そのときばかりは白樺の白い樹肌と葉っぱの緑がひととき明るく輝き、キベリタテハがいまにもすべるように舞い降りてくるのでは、と期待させる。シートテハがあらわれてスイスイと飛び去るが、11時を過ぎてもキベリタテハは1頭も姿を見せない。

スジボソヤマキチョウ1♂を採り、さらにアザミ花上で求蜜する光景をカメラに収めて「からまつ荘」にもどる。はるばるやってきてキベリタテハとは出会えないまま帰るしかないのか。弁当の昼食をすませ13時のバスで地蔵峠に向う。車窓からは何かチョウがいらないかと注意を怠らない。やがて、峠に近いカーブにさしかかった路面に羽をひらいてとまる黒いチョウの姿が目に見え飛込む。一瞬にして認めた黄色い縁どりとビロード調の黒紫褐色、そして特徴的なブルーの斑紋。キベリタテハだ。惜しいかなバスは止まってくれない。無情にもキベリタテハは遠ざかるのみ。いや、峠からここまで歩いてもどろう、そう言い聞かす。やがてバスは昨日ベニヒカゲと戯れた草原横にさしかかる。すると、何とここにもキベリタテハがいるではないか。思わず前の座席の造成にも知らせて喜ぶ。峠でバスを降りるや一目散にアスファルト道路を温泉側へと駆け下りる。ところがバスから見えた位置にキベリタテハの姿はない。どこかへ飛んでいってしまったのか。道路近辺、範囲を広げて調べてみる。すると、いるいる。アスファルト路面から外れた赤土の上にベッタリと羽を広げるキベリタテハが見つかる。V字開翅ではないので路面の水を吸っているのではなさそうだが、すぐに飛び去る気配はない。グリーンネットをゆっくりかぶせる。びっくりしてはばたくキベリタテハ。少し翅が傷んだ個体だが貴重な記念品として三角紙に収める。これで気をよくしてベニヒカゲをカメラで追う。ふと目に入る大きい黒。再びキベリタテハだ。ビールの空き缶が2個ころがるその横に、飛来したばかりのようだ。この時点ではビールの発酵臭に惹かれてきたという考えはなく、チョウが足場を決める間にこちらも足場を整え、すばやくネットをかぶせ込み、ネットの先の方へ追い込むようにしてサッと一振り。そのとき、そばでずっと見守っていた造成が「逃げた！」と叫ぶ。そのとおりネットの中にキベリタテハの姿はない。何という不覚。いったいどこに逃げた？ 呆然とする筆者に救いの声がかかる。「背中だよ。パパの背中にとまっているよ」。普通、驚いたチョウは一目散に遠く飛び去るのに、今はなんと驚かせた当事者の背中にとどまっているという。身体を大きく動かさないように注意しながら、浩



Aug. 29, 1977
長野地蔵峠
leg. Hiroaki Shimazaki

成にネットを静かに手渡し「ゆっくりまっすぐかぶせて」と指示。浩成は実に慎重にうまくやってくれ、振り向くとちゃんと二つ折りにしたネットの袋の方で完璧に新鮮なキベリタテハがバサバサともがいている（本個体は標本撮影時のゆがみではなく実際に右の翅が前後翅ともにやや小さい異常型）。「よくやってくれた、ありがとう」浩成のうれしそうな笑顔。すばらしい思い出をつくってくれたこのキベリタテハはなぜ一気に遠く飛び去らなかったのだろうか。いきなりネットをかぶせられたショックは大きかったはず。そこで考えられるのがビールの空き缶の影響だ。その発酵臭がよほど気に入って、離れがたかった可能性はある。あるいは、当方が気づかないあいだにすでにビールを少々賞味して、ちょっと酔っ払っていたのかもしれない。そんな考察をしている最中、またしても新たなキベリタテハが滑空しながら現れて、ビールの空き缶付近に着地する。これは間違いなく、発酵臭の誘引効果だ。期せずして2頭目の新鮮キベリタテハをゲットする。このときの経験をもとに、後年、塩山市の上日川林道であえて缶ビールを買い込んで、堰堤近くの川原にふりまいてみたことがあるが、そのときにはキベリタテハをおびき寄せることはできていない。



Aug. 29, 1977 長野地蔵峠

Aug. 11, 2000 : 塩山市上日川林道

堰堤の角部分に何か黒い影があつてチョウのように見えるので近づいてみる。紛れもないキベリタテハである。びっくりともせず静止している様子なのでゆっくりとデジカメで迫ってみる。

堰堤と背景の広大な谷間の景色をうまく構成した映像記録に成功するや、直ちにカメラをネットにもちかえる。背後からせまるべくコンクリートの斜面部分をゆっくりと驚かさないうにすべり降りたはずなのにど



Aug. 11, 2000 塩山市上日川林道

こまでも敏感なキベリタテハはとつぜん飛び立つが、幸いにも堰堤下の湿地帯へと場所を移してとどまってくれる。こちらですばやく移動して今度は土の斜面をころぶように駆け下りてチョウの近くへと急ぐ。

Aug. 25, 2004 : 月夜沢林道

中央高速道中津川 IC から国道 19 号線に入り、木曾福島から 361 号線へと分岐。新地蔵トンネルをぬけて白樺林が続く快適な道を走り、小さな村落の間を通過して山側へと進むと、道路右側に林道の名前がうっすらと読み取れる標識がみえる。ところが「車両通行禁止」という添え書きもあって、どうということかと迷うがとにかく進んでみる。路面石上では C-タテハが日向ぼっこをしており、林道右手の清水が滴り落ちる岩場にクジャクチョウがひらりと現われて吸水し始める。そのクジャクチョウの色彩が大理石模様に映えてうっとりするほどに美しい。

この水場からさらに奥へと走る途中でキベリタテハがあらわれ、路面で吸水姿勢をとる。急ぎ車から降りて、じっくりと V 字開翅場面の撮影をねらう。チョウは右へ左へと少しずつ場所をかえながらも飛び立つ気配はなく、やがて気に入った場所をみつけたのか、夢中で吸水しながら V

字開翅体勢をとってくれる。確実な撮影ができたあとで、記念標本とするためにネット捕獲の対象ともしてしまうのが申し訳ない。林道をゆっくり走るあいだに、路端で吸水していたと思われる



Aug. 27, 2005 月夜沢林道

るキベリタテハが何頭か路面から飛び立つ。

2005年の8月には木曾鹿の湯温泉の駐車場路面で吸汁中の個体に出会い、飯田市へとぬける山越えの道中、大平宿でも大型の個体が飛び出してきて、いずれも産地別標本用に捕獲している。



Aug. 27, 2005 木曾鹿の湯温泉



Aug. 28, 2005 飯田市大平宿

Aug. 21, 2003 & Aug. 28, 2005 : しらびそ高原

2003年の8月に訪れたときは、しらびそ峠で休憩タイムをとった際に、いきなり崖側から新鮮個体が現れて駐車場を横切って林の方へと飛んでいくのを走り追いかけてネットインしている。

2005年の8月28日は朝からすこぶるいい天気、やがて道路脇に見えるコンクリートの防護壁にタテハチョウの仲間が遊んでいる環境となる。エルタテハと思われるチョウが目に入った場所で車をとめて降り立つと、そこはカーブを曲がりきった右手に大きく開けた崖があり、左山側にはコンクリートの防護壁が数百メートルにわたって続いている、キベリタテハが現れるには格好の場所なのでしばらく待機することにする。カーブとなった場所の奥手には適度な草原が広がり、林縁沿いに大きなミヤマカラスアゲハが蝶道を形成していったりきたりしている。直感どおり、ここはチョウが次々と遊びにくる絶好の場所で、珍しく右後翅縁の黄色部分が異常に幅広くなった変異個体にも出会っている。

開田高原とはちがって新鮮なキベリタテハがどこからともなく滑空しながら現れるし、



Aug. 21, 2003 しらびそ峠



50828 しらびそ高原 右後翅異常



Aug. 28, 2005 しらびそ高原

クジャクチョウやエルタテハ、キタテハも防護壁のわずかな水分を求めて訪れ、昨日の林道で出会えた想定外のツマジロウラジャノメも姿を見せる。ここでは発生のピークが開田高原とは逆転しているようで、キベリタテハは新鮮なのにツマジロウラジャノメは新鮮度が低い。崖の斜面岩陰に生えるヌカボと思われる食草に盛んに産卵活動をするツマジロウラジャノメの様子をビデオカメラに記録する。

Aug. 19, 2008 : 蓼科高原

以前にキベリタテハを目撃できた、峠を越えた先にある白駒林道をめざす。2127m という国道最高地点の麦草峠を越えて走り抜けようとした左手広場に白い乗用車が止まっており、その横を通り過ぎる瞬間に自動車の周りを飛ぶキベリタテハが目に入る。妻はとっさに急停車してくれ、ネット片手にキベリの動きに注視する。キベリタテハはシルバーなど自動車のボディ反射光に惹かれて飛来することは月夜沢でも経験済みで、今回は白い自動車だったようだが、近くに広がるダケカンバ林へと飛び去る可能性も考えられる飛翔を見せながら、幸いなことに広場のはずれにある草むらの空き地に羽を広げて静止姿勢をとる。



Aug. 19, 2008 麦草峠

Aug. 22, 2008 : 扉峠

和田峠を經由し、三峰展望台を右にやりすごして扉峠が近づいたあたりで、道路右が深い谷となって樹林帯がその斜面を覆い、左側にはコンクリート防護壁が連なる環境となると、いきなりキベリタテハが飛び出てくる。2,3頭がひらひらと舞う。写真を撮るには背景に面白みがないがビデオ記録だけはとっておく（右の画像はビデオ記録から選別した静止画像）。次いで新鮮個体を選んでネットを振る。通常、壁面で吸水中のところにネットを横からかぶせるのが確実な捕獲法であるが、この日は、水平に飛行するところをスーッと横払いでネットインできる個体も少なくない。こういうキベリタテハが好みそうな場所が道路沿いに何箇所もあり、妻には峠の駐車場まで先に行ってもらって、しばらく歩いてみることにする。実は峠はそう遠くないはずと考えての選択だったのだが、意外に相当歩き続けてもそこに至る気配はない。そのうち、妻の判断で迎えに来てくれることを期待しようと、とにかく進むうち、右手に平坦な林が展開するところに車を入れて待つ妻の姿が目に入る。妻も、峠までまだかなりの距離があることを知って、峠から戻ってきてくれ、その途中、周辺を複数のキベリタテハが飛んでいて車も止められる格好の場所を見つけたのだという。この場所で、ビデオカメラも駆使して存分にキベリタテハと戯れ、最後に、峠駐車場近辺でもキベリタテハを堪能して11時頃ようやく帰路に着く。



Aug. 22, 2008 扉峠

